

令和6年度 第2回 四街道市地域公共交通会議 会議録

日 時	令和6年6月28日（金） 10:00～11:00
場 所	四街道市文化センター203号室
出席委員	小早川会長 江守副会長 佐藤委員 渡邊（友）委員 清原委員 森委員 成田委員 高山委員 伊藤（恭）委員 菊地委員 土門委員 高橋氏〈小林委員代理〉 伊藤（壮）委員 渋沢委員 金森委員 伊藤（智）委員 渡辺（暢）委員 野口委員 南氏〈伊藤（昌）委員代理〉 及川委員 吉橋委員
欠席委員	平賀委員 馬淵委員 植園委員 長田委員
事務局出席者	新田地域共創部副参事 松崎くらし安全交通課長 小安交通政策係長 平良主事 淡路主事 竹中主事 ランドブレイン(株)
傍聴人	2人

———会議次第———

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議の公開・非公開について
- 4 議題
 - （1）公共交通に関する実態調査の概要について
 - （2）地域交通の確保に向けたこれまでの取組等について
- 5 その他
- 6 閉会

———会議の内容———

1. 開会

【事務局】 本日は、公私ともにご多忙の中、令和6年度第2回四街道市地域公共交通会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

会議の開催に先立ちまして、千葉県総合企画部地域公共交通担当課長に人事異動があり、前任の高山裕明委員から後任の伊藤昌央委員に委嘱の変更がありましたのでご報告させていただきます。なお、新たな委員名簿につきましては、事前に郵送させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

また、事務局に関しまして、今回の会議より計画策定支援業務を委託することになりました「ランドブレイン株式会社」に同席いただいておりますのでご報告させていただきます。

定刻となりましたので、これより、令和6年度第2回四街道市地域公共交通会議を開会いたします。

本日は、定員定数 25 名のうち 19 名にご出席をいただいておりますので、会議が成立していますことをご報告させていただきます。

また、会議の成立や議事の可否を決する際の人数には含まれておりませんが、欠席委員の代理といたしまして、国土交通省関東運輸局千葉運輸支局から、首席運輸企画専門官の高橋様、千葉県から、総合企画部交通計画課企画調整室副主査の南様にご出席いただいておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、会議次第に沿って順次進めさせていただきます。

2. 会長あいさつ

【事務局】 はじめに、小早川会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

小早川会長、よろしくお願いたします。

【小早川会長】 ～あいさつ～

【事務局】 ありがとうございます。この後の会議の進行につきましては、地域公共交通会議条例の規定に基づき、小早川会長が議長となりますので、よろしくお願いたします。

3. 会議の公開・非公開について

【小早川会長】 それでは、議長をつとめさせていただきます。

はじめに、会議録についてですが、第 1 回会議で決定しましたとおり発言者名は明記する扱いとし、事務局において作成をお願いいたします。

内容確認につきましては、公募市民の土門委員、伊藤委員にお願いしたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

【各委員】 ～承認～

【小早川会長】 土門委員、伊藤委員よろしいでしょうか。

【土門委員・伊藤委員】 ～承認～

【小早川会長】 それでは、会議録の内容確認を土門委員、伊藤委員にお願いいたします。

次に、本日の会議の公開・非公開につきましては、会議の公開に関する指針により、公開とさせていただきます。

また、会議資料につきましては、同指針の解釈運用基準により、傍聴人の閲覧に供するものとなりますが、このうち、会議次第につきましては、配布するものいたします。その他の資料につきましては、本審議会の判断によるものとされており、本日の資料については、全て配布するものと

したいと存じますが、委員の皆様の意見をお伺いします。

【各委員】 ～異議なし～

【小早川会長】 それでは、本会議は「公開」とし、傍聴人に資料を配布することとします。事務局は傍聴の方がいらっしゃいましたら入室させてください。

【事務局】 2名いらっしゃいますので、ただ今から入室していただきます。

4. 議題

【小早川会長】 議題に入ります。

(1) 公共交通に関する実態調査の概要について

【小早川会長】 (1) 公共交通に関する実態調査の概要について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 ご説明いたします。

今回、地域公共交通計画を策定するにあたりまして、資料1「公共交通に関する実態調査の概要について」にありますように、8つの調査を実施してまいりたいと考えてございます。

まず1点目、市民アンケート調査でございます。市民アンケート調査につきましては、15歳以上の市民3,000人を対象としまして、郵送プラスWEBによる回答という形で、市民の方の移動の実態、それと公共交通の利用実態、利用意向、市民のニーズについて把握をしてまいりたいと考えてございます。

2点目、市内循環バスヨッピーの利用者アンケート調査でございます。こちらにつきましては、市内循環バスの利用者を対象としまして、平日、休日各1日始発から終発の全便を対象とし、実際にバスに調査員が乗り込み、利用の実態、利用の特性、サービスの満足度等を把握しながら、現行のサービスと利用者ニーズとの適合性を踏まえた改善点の把握につなげてまいりたいと考えてございます。

3点目、鉄道、路線バス、タクシーの利用者アンケート調査でございます。こちら、それぞれの利用者を対象としまして、鉄道、路線バスにつきましては、四街道駅と物井駅の2駅に調査員を配置いたしまして、平日、休日各1日の朝7時から夜7時までの12時間で実施してまいりたいと考えております。また、タクシーにつきましては、WEBの形で車内にアンケート用のQRコードをチラシにして車内に提示し、利用者アンケートを実施してまいりたいと考えております。

4点目、交通事業者アンケート調査でございます。鉄道、高速バス、路線バス、市内循環バス、タクシーの事業者さんを対象としまして、公共交通事業者さんの課題、あるいはその見直しにあたっての留意すべき点について、それぞれの事業者さんの運行車両の概要、現在抱えている課題、利用

者等から寄せられているご意見、今後の施策に関する取組内容等、こういったことについて、メール等で配信をしまして、後日、必要に応じてヒアリングを実施してまいりたいと考えてございます。

5点目、関係団体アンケート調査ということで、こちらは商工会、社会福祉協議会を対象としまして、まちづくりの観点からの課題、それと今後の公共交通との協力、連携の可能性という観点で、同じようにメール等で配信をしまして、後日必要に応じてヒアリングを行うことを考えてございます。

6点目、近隣自治体アンケート調査でございます。こちらは主に千葉市、佐倉市、八千代市と隣接する自治体の公共交通のご担当者さんを対象としまして、メール等でアンケートを実施してまいりたいと思います。主に地域間を運行する交通手段の維持確保に向けた取組や市域を越えた広域連携の可能性、このような観点でメール等のアンケートを実施してまいりたいと考えてございます。

7点目、民生委員・児童委員アンケート調査でございます。市内の民生委員、児童委員の139人を対象としまして、郵送による配布、回収という形で高齢者等から寄せられているご意見、困っていること等についてのアンケートを実施してまいりたいと考えてございます。

最後8点目、地区別の意見交換でございます。こちらは実際に市民の方を対象に地区ごとの意見交換を実施してまいりたいと考えてございます。市民の方の日常の移動実態あるいは困っていること、あるいは公共交通との連携協力の可能性という観点で地区別の意見交換を実施してまいりたいと考えてございます。

以上、8つの調査を通して、公共交通に関する利用実態あるいはその利用意向、こういったことについて把握をして、今後の課題あるいはその施策の検討等に活用してまいりたいと考えてございます。

説明としては以上でございます。

【小早川会長】 ただ今、資料についてご説明をいただきました。

公共交通に関する実態調査の概要について、ご質問やご意見ございましたらお聞きしたいと思います。

【江守副会長】 公共交通に関する実態調査ということで、前回も少し言いましたが、福祉有償運送関係の団体でいうと、近隣自治体では八千代市や佐倉市等で運送を行っている認識しております。そのような関係のところにも、ヒアリング等していただくと、より幅広く実態をみれるのではないかなと考えております。

【事務局】 江守副会長がおっしゃった近隣自治体アンケートにおいて、福祉有償運送の状況やそれに関係することについて把握すべきであると理解しておりますので、設問を追加する形でアンケート調査の実施を検討していきたいと考えております。

【江守副会長】 行政の方で把握している問題点が明確になっているかどうか、私自身が福祉有償に関連がありますので少し不安なところがあります。バス会社と一緒に担い手不足がかなり深刻になっているので、そのような実態が出てくると、地域としてどう動くべきかを把握できるのではな

いかと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】 今回社会福祉協議会にも調査を行います。場合によっては、その自治体の福祉部局にもヒアリングも含めて、実態等を把握してまいりたいと思います。

【森委員】 ④交通事業者アンケート調査において、QRコードについてのご説明がありましたが、具体的な説明をお願いします。

【事務局】 タクシー利用者アンケートそのものにつきましては、参考資料「公共交通に関する実態調査における調査票について」13ページにお示しをしておりますが、調査員が乗ることが難しい部分がございますので、タクシーの車内の後部座席の前の位置にラミネート加工をしたチラシを貼り、そのチラシにQRコードを添付した形で、アンケートページへアクセスしていただけるような形を想定しております。

【森委員】 ご利用者はご年配者もかなり多く、QRコード自体を認識してない方も非常に多い。それについて乗務員とやり取りしている中で、何を言ってるか分からないということで、揉めてしまう可能性もあり、QRコードを読み込ませることができる人がどれだけいるのかという疑問がございますので、再考をお願いいたします。

【小早川会長】 タクシー利用者アンケートで具体的には何を知りたいのですか。

【事務局】 タクシー利用者の利用の特性であったり、その改善すべき点ということで理解をしているところでございます。

【小早川会長】 何を狙うのか、誰にどう聞くのか、をもう少し具体的に提示し、本当にQRコードがいいのかというところを検討していただきたいと思います。

【土門委員】 今の意見について、QRコードにあまり賛成できません。実際にスーパーでもQRコード決済をやっていますけれども年配者はあまり使用していません。

【小早川会長】 そうですね、どうしてもスマホでアンケートをすると年齢層が限られてしまうところがあるかもしれないですね。なにか補完できるような仕組みを少し考えていただいた方がいいかもしれない。

【事務局】 現実的には若い方を主なターゲットとしてQRコードはQRコードでやらせていただきまして、プラス、例えば、タクシー会社さんの方でご協力いただけるのであれば、運転手さんに調査票を渡していただいて、郵送回収のような形になれば、高齢者の方もお答えがしやすいのではないかなと思います。そちらのやり方は、また調整をさせていただければと思います。

【小早川会長】 何を把握しようとしているのかを考えていただいて、アンケートの内容を調整した方がいかなという印象はあります。

【佐藤委員】 ③鉄道・路線バス・タクシー利用者アンケート調査で交通利用者に対するアンケートの中で、例えばどのように人員を配置するのか、何が必要なのかそのあたり具体的な部分について、今の時点でどういった形で行おうと考えているのかを教えてください。

もう一点、この利用者アンケートに対して、バス事業者に協力できることがあれば教えてください。例えばパンフレットの配布などそのようなものがあれば、共有したいと思います。

【小早川会長】 具体的な実施方法についてご意見あれば教えてください。

【事務局】 まず路線バスにつきましては、四街道駅の北口と南口の両方の駅前広場のところに調査員を配置させていただきます。物井駅にも両方の出口がありますが、本数を考慮し、両方の出口を行ったり来たりするかもしれませんが、バスを待っている方、あるいは降りてくる方を対象とすることを考えております。

鉄道につきましては、駅の自由通路や改札に調査員を配置させていただきまして、調査を実施していきたいと考えてございます。

【小早川会長】 これは鉄道事業者に許可もらわないといけないですね。

【事務局】 今回、実態調査の概要についてご承諾いただきましたら、交通事業者様に対して正式にご依頼させていただきたいと考えております。

【佐藤委員】 分かりました。

【金森委員】 今の話について、この調査は調査票自体をお客さんに配布して回収するのか、調査票をその場で回答して記入するのか。

【事務局】 後者を考えています。

【小早川会長】 市民アンケートで四街道市全体の状況がわかると思いますが、例えば路線ごとや地域ごとに話を切り分けることができるようなデータは取れるのでしょうか。例えば路線ごとの利用者人数について、事業者さんから提供してもらうことができるのか、データを収集しなければ存在しないのか。あるいは同じ駅という区分けでも四街道駅周辺に住んでいる人と物井駅周辺に住む人では状況が全然違うと思います。そのあたりの内容も把握できた上で計画に反映できるようなデータが取れるかどうかというところは、いかがでしょうか。

【事務局】 今回、3,000人の抽出にあたりましては、既存の公共交通のあり方における11ブロックに、もねの里エリアを加えた12ブロックを対象に各250人ずつの抽出を予定しております。それにより全体的にバランスの取れた対象を選定していく考えでおります。また、お住まいの郵便番号を書いていただくことで、回答者の地域を把握できるようにしたいと考えております。それにより今会長からお話ありましたような分析につなげていきたいと考えております。

【小早川会長】 アンケート調査票に郵便番号を書くようになっているのですね。それから今の話に関連して、⑧地区別意見交換会というのは、これは何ブロックぐらいのイメージですか。先ほどの12ブロックでやるのですか。

【事務局】 まだ正式には決まっておりませんが、最終的にはおおむね5ブロック程度まで集約したいと考えております。

【小早川会長】 できれば、この地区の考え方のようなものをどこかで示していただけるとありがたいです。私は四街道市民ではないので、どういうブロックに分かれるのかあまりイメージできないのと、それが路線とどういう関係になっているのかわからないので、そういったことがわかる図面があるとありがたいです。

【事務局】 今のご意見につきまして、方向性が定まりましたら後日皆様にご提示したいと思っております。今のところの考えといたしましては、中学校区レベルでの大きな区分というのをイメージしております。ただ、アンケートの回収状況により、少し境界が変わってくる可能性はありますが、おおむね中学校区というイメージということでこの場ではお答えさせていただきたいと思えます。

【小早川会長】 都市マスタープランと同じようなエリアですか。

【事務局】 そちらの方も踏まえたエリア分けを検討していきます。

【小早川会長】 わかりました。エリアごとの特徴について、何か欲しいなと思ったので聞きました。

【森委員】 先ほどのQRコードでやりたいという提案で、タクシーに備え付けるとなると、内容について乗務員に質問を行い、乗務員が答えられないことが出てきます。はがきサイズのカードでアンケートを実施し、詳しくはQRコードを読み込ませて答えるというような形で乗務員が配る形で実施すれば、やり方は本人の意思なので、非常に運用しやすいかと思えますので、1つご提案させていただきたいと思えます。

【小早川会長】 この調査のやり方も少し相談していただいて調整していただければと思います。調査は具体的にはいつ位から開始するイメージですか。

【事務局】 準備が出来次第、行いたいと考えています。②市内循環バス「ヨッピー」利用者アンケート調査と③鉄道・路線バス・タクシー利用者アンケートについては、7月下旬から学生が夏休みに入ってしまうため、7月中旬頃までに調査を実施していきたいと考えています。それ以外のアンケートにつきましては、本日調査票をお示しした中で一部修正等がありますので、修正し準備が整い次第、順次調査を実施していきたいと考えております。②と③につきまして、早めに実施したいと考えております。

【江守副会長】 市民アンケートにおける回答者ご自身の状況についての調査では、性別・年齢・職業等がありますが、自動車の保有をされているかどうか、プラスご自身で運転できる状況かどうかという点は調査が行われますか。心配している部分として、今までは年齢での調査をしてきましたが、例えば同じ70歳でも体が動きづらい人もいる一方で、かなり元気な人もいるように、実態は幅広くなっていると思いますので、このあたりを年齢だけで把握できるかが重要になると思います。

私はこういう調査を実施する際に、生活能力という、生活でどんな不具合が生じるのかや、自身で買い物がどれくらいできるのか、といったところを聞いた上で、関連性を把握しています。ですので、年齢で回答を求めるだけでなく、そういう視点でアンケート内容を整備されると、より実態に即した調査ができるのかなと感じております。それから、免許の保有状況や返納の意思等も実態を把握する上で重要になるのではないかと思います。

【小早川会長】 免許の項目がもし可能であれば入れていただければ。

【事務局】 お示しさせていただいております参考資料3ページになりますけれども、こちらの方では、自動車、バイクの運転状況ということで免許の所有に関する質問を用意しています。さらにその下に進んでいきますと、将来的な返納の意思についても聞き取りをさせていただくような内容となっています。

【小早川会長】 対応できるところもあるということですね。

【小早川会長】 ほかにご質問ございますか。

そうしましたら、修正をかけなきゃいけない部分については修正をかけていただきまして、急いでアンケートしなければいけない項目については進めていただいて、その他の項目については、修正が終わり次第アンケートということでよろしいでしょうか。具体的な内容等、最終的な調整はどうなりますか。

【事務局】 最終的には事務局に一任していただきたいと思いますが、この会議が終わりましたら、1週間程度の調整期間を設けたいと考えております。もし委員の皆様から具体的にこうした方がいいというご意見があるようでしたら、来週中に事務局までご連絡いただければと思います。

【小早川会長】 ではぜひ、今日もう既に目を通していらっしゃるかと思いますけども、今日のご意見とご質問等を受けて、もう一度見ていただいて、やはりこうした方がいいのではないかというご提案があれば、ぜひ事務局さんの方に連絡いただきたいと思います。最終的には事務局さんと、あとは私の方で確認してということでやらせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

【各委員】 ～承認～

【小早川会長】 ありがとうございます。そのように決定し、議題（1）を終了します。

（2）地域交通の確保に向けたこれまでの取組等について

【小早川会長】 続いて、議題（2）地域交通の確保に向けたこれまでの取組等について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 議題（2）について、資料2「地域交通の確保に向けたこれまでの取組等について」をご覧ください。前回（第1回）会議において、成田委員より、市の課題を整理していくにあたって、これまでの取組やその評価等を議題として取り上げて欲しいとのご意見がございましたので、概要等をご紹介します。

「1. 各地域における取組について」ご説明いたします。1つ目、大日線畔田台系統の路線バス運行についてですが、こちらは、畔田台区住民自らが利用促進を図ることで、路線バスの運行を実現した取組となりますが、路線開設前の利用予測値を大きく下回る状況が続き、改善の兆候が見られないことから、路線廃止に至っています。

取組主体は畔田台区、運行事業者は千葉内陸バス株式会社、運行期間は平成24年7月から平成28年3月で、運行区域は大日1622番地先から大日735番地先までとなっています。

2つ目、デマンド型乗合タクシーの実証実験についてですが、こちらは、さつきヶ丘自治会が「さつきヶ丘乗合タクシー運営協議会」を組織し、本市における公共交通空白地域や不便地域の解消に向けた新たな交通手段の一つとして、デマンド型タクシーの導入について検証を行った取組となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響があった中、運行率や乗合率が当初の目標値を下回るなど利用が伸び悩み、タクシー事業者における事業継続が困難となったことから、事業終了となっています。

取組主体はさつきヶ丘乗合タクシー運営協議会、運行事業者は飛鳥交通千葉株式会社四街道営業所、運行期間は令和元年10月から令和3年3月で、運行区域はさつきヶ丘地区及び四街道駅周辺となっています。

3つ目、お買物バスの実証実験についてですが、こちらは、みそら自治会が貸切バスを活用した「お買物バス」の運行を企画し、団地内から物井駅・もねの里方面へマイクロバスの試走を行った取組となりますが、利用者には好評であったものの、利用予測値を下回る結果となったことなどから、継続的な実施には至りませんでした。

取組主体はみそら自治会、運行事業者は千葉内陸バス株式会社、運行期間は令和5年1月中の2日間で、運行区域はみそら地区及び物井駅・もねの里となっています。

4つ目、グリーンスローモビリティの実証実験についてですが、こちらは、環境にやさしく、狭い道路も通行が可能なグリーンスローモビリティを活用し、高齢化率が高く、人口が減少傾向にある千代田団地内において、地域公共交通の課題解決に向けた効果検証を目的とした取組となります。令和4年10月にデマンド型から定時定路線へ運行方法を変更したことにより会員数は大きく増加し、現在も緩やかに増え続けている状況です。

取組主体は四街道市、運行事業者は千葉内陸バス株式会社、運行期間は令和3年10月から現在も実施中で、運行区域は千代田地区及びその周辺となっています。

各地域における取組マップを見ますと、網掛け・斜線部分の交通空白・不便地域や高齢化が進行している団地等を中心に取組が進められていることが分かります。

3ページから5ページには、参考として、グリーンスローモビリティの運行状況をお示ししています。

主な利用者層について、4ページ④のとおり、会員の約9割が70代～80代の高齢者となっています。

また、令和5年度における1便当たりの平均利用者数は、⑤のとおり、Aルート5.08人、Bルート5.73人となっており、全体では5.44人という状況です。

さらに、5ページ⑥のアンケート結果を見ていただくと、主な利用目的は買い物で、スーパーや商業施設等への外出が大半を占めており、日常生活に密着した移動手段として利用されていることが分かるほか、実証実験を通じて、地域交通を整備することにより、地域コミュニティの向上や外出意欲の向上といった諸効果が見られます。

続いて6ページをご覧ください。「2. これまでの取組から見えること」として4点を整理しました。

①地域主体の交通確保に向けた機運の高まりは、高齢化の進展等により市内の各地域で公共交通の必要性が高まっており、住民自らの力で交通手段の確保・維持に取り組もうとする地域が増えていきます。

②日常生活における利便性向上への期待については、地域交通を必要とする住民（特に高齢者）の主な利用目的は、買物、通院、駅までの移動であり、これまでの取組から、商業施設や病院等に直接アクセスできる身近で便利な移動手段を求めていることが伺えます。

③収支均衡の重要性については、持続可能な公共交通を実現する上で、事業の収支均衡を意識することは避けて通ることはできない問題であり、利用者や地域の負担、地域の実態や利用予測に応じた移動手段の選択や利用促進などが不可欠であると考えます。

④地域交通の諸効果については、現在実施しているグリーンスローモビリティの実証実験では、目的地への移動のみならず、高齢者の外出意欲の向上や地域コミュニティの増進等にも効果が見ら

れており、公共交通がもたらす地域社会への影響は大きいことから、高齢者支援等の福祉的な視点や地域の活性化など“まちづくり”の観点も含め、多角的な視点から本市における公共交通のあり方を検討していく必要があると考えます。

以上を踏まえ、

「3. 計画策定に向けてのコンセプト（案）」になりますが、地域の実情を踏まえた移動手段の確保や、将来にわたって交通を維持していくための利用者負担及び利用促進、利便性向上や福祉的な視点等を意識した地域公共交通の実現を課題と捉えた上で、みんなで創る、みんなで支える、みんなに優しいという3つのキーワードを、計画のコンセプト（イメージ）として挙げました。

また、4つの視点として「共創」「持続」「安心」「快適」を示しており、「公共交通に関わる全ての関係者がともに考え、創意工夫すること」、「社会環境の変化に対応し、将来にわたって持続可能な交通ネットワークを構築すること」、「地域の実態に適した移動手段を確保すること」、「公共交通の利便性を高めることで、まちを住みよくする」ことを目指していけたらと考えているところです。

【小早川会長】 ただ今、資料についてご説明をいただきました。

各地域におけるこれまでの取組とその評価に関する事務局の報告について、ご質問やご意見ございましたらお聞きしたいと思います。

【小早川会長】 資料の1ページ目で、これまでの取組を整理していただいているんですけど、料金とかは全部無料で運行されたのですか。

【事務局】 無料で行ったのはグリーンスローモビリティのみで、その他については有料となっております。

【小早川会長】 具体的にはいくらぐらいですか。

【事務局】 1－（1）の路線バスの運行につきましては、通常の乗り合い運賃となっております。

【小早川会長】 お聞きしたかったのは、無料だったら利用者は増えるよねと思いました。支払いがあるのとないのとでは違うのではないかなと思います。それを一律で比較してよいのでしょうか。

（1）（2）（3）も無料にしたら利用者が増えるのかと思いますが、無料でやるのは市の財政を圧迫することから持続性とか、収支バランス等が難しくなるのだと思います。その中で、6ページの収支状況において、（4）だけすごくよく、好評ですと言われても、比較ができないので、料金の項目もいただけるといいのかなと思いました。

【土門委員】 （4）を立ち上げたときに、住民から無料はどこまで続くんだと、例え200円でもいいから払った方がいいんじゃないかという意見が多かったです。しかし、事業者の方は、あくまでも試験で無料ですと言われてたんですけど、今の感じで四街道市の財政が厳しい意見があり、少し

でもお金払った方がいいのではないかと住民から声が出ています。回数券制度のようにして支払いを行った方が乗車する側も気持ちがいいという意見がありますので、そのようなことを事業者の方もお考えですか。

【小早川会長】 現状では無料で運行されてるということなので、将来的にずっと無料でいるかどうかというのは、市としてはどのような考え方ですか。

【事務局】 正式な方向性というのはまだ定まっていないのが現状であり、あくまでも、このグリーンスローモビリティの活用に対してどういった効果があるかということの実証実験のフィールドとして、千代田地区で今実施させていただいているところでございます。お話がありました通り、経済的な部分から、無賃ではなく一定程度の料金徴収が必要ではないかというご意見もこの取組の結果の1つであるかと考えております。さらには、今行っております千代田地区以外にこのグリーンスローモビリティがマッチする地域等があるかもしれませんので、そういった場合には、経験を踏まえた上で、正式な導入に向けて取組を進めてまいりたいと考えております。

【土門委員】 土日がお休みというのは、やはり行政の方がお休みであるということも影響しているのですか。住民の方がやはり土日どちらか1つ、1日でもいいから運行してほしいという意見もあります。

【小早川会長】 土日の運行については、いかがですか。具体的には検討できてないのですか。

【事務局】 申し訳ありません。そういったご意見があるというのは把握しているところですが、今のところ実証実験のメニューとして土日の新たな取組というのは計画できていないというのが率直なところでございます。今後、ご意見いただきつつ、検討を進めていければと考えております。

【小早川会長】 そのあたりの料金等も含めて、もし本格運行になった時にどのようにするかというのがわかるようなデータが取れるといいのかなと思います。

【成田委員】 この実証実験の中で、高齢者の行動力の向上や地域コミュニティ向上等に効果が見えたわけですが、これは何を根拠として見えたのかというところを伺いたいです。5ページの利用者アンケートでは回答数が少なく、参考資料の中でもそのあたりを読み取れる内容がなかったため、高齢者の外出意欲の向上等の部分をどのようにして結論付けたのか、どのような把握されているのか、もし分かれば教えていただきたいというのが1点目。

あともう1点は、計画作成に向けたコンセプトに、みんなで作る、みんなで支える、非常に重要なことだと思います。このみんなでというのは、市民の方も含まれていると思います。以前の四街道市地域公共交通会議でも市民の意向を汲み上げながらやっていますが、これから計画策定において、このみんなでというコンセプトを入れるとすると、市民の方、また地域の自治会等々からのご関心・ご要望等をどのように汲み上げていくのか。現時点で、そのような組織が四街道市内にあるのか、

それともこれから0から作り出すのか。これについて、補足してご説明いただけると、よりこれまでの経緯に対する総括ということになると思いますので、お願いできればと思います。

【事務局】 まず、グリーンスローモビリティにおける高齢者の外出意欲、地域コミュニティの増進というところにつきまして、エビデンスとして弱いのではないかというお話がありましたが、事務局として今回この資料をまとめた段階では、利用されてる方に関して、少なくともこういった効果が得られていると評価させていただきました。しかしながら、もう少し分析が必要ではないかというご指摘につきましては、事務局の方でもよく考えて、これを公表していく、さらにその次のステップに結びつけていきたいと考えております。

続いて、コンセプトの方で、みんなでということの、今後のみんなで作りに上げていくような組織体制ということにつきましては、今現時点で特に設置等されてるものはありませんが、今後、地域別の意見交換会等を行っていく中で、市民の方と直接お話していきたいと考えております。

【成田委員】 わかりました。本日の資料は公開と聞いております。ですから、これが効果が見られるにはまだプロセスがあるということで、効果について見直しをするという形で公表等をした方がいいのではないかというのが1点です。

それから、現時点で市民や自治会の関心、要望を汲み上げる組織というものは四街道市にはないということですので、計画を今後策定するにあたっては、こうした組織作り、もしくは意見交換会での汲み上げを行ってほしいと思います。通常ですと、みんなで作る、みんなで支えるというのは、市の方で計画を作り、それに合わせて皆さん協力してくださいということなのですが、このコンセプトであると、どういう方々にどういう形で参画してもらってやるという部分を十分に説明して、計画策定を進めていただきますようお願いいたします。以上です。

【小早川会長】 1点目については付記をしてください。2点目については、みんなというのは、具体的に言うと、どのようなイメージであるかは人によって違うかもしれません。具体的にこれを意見交換会でどう理解してもらおうかというのは、説明の仕方によって違ってきてしまうかと思います。

【事務局】 今事務局が考えているところといたしましては、これまでは行政主体となって動いてきたところがあるかと思いますが、今後は地域が主体となって考えていくことが大切だと思います。これまでの取組の中でもありましたけれども、例えば、さつきヶ丘自治会がさつきヶ丘乗合タクシー運営協議会を組織したような、地域からの発意によってこれからの取組が検討されていくということが望ましいと考えているところですので、そのような意識付け等をやっていきたいと考えております。

【成田委員】 よくわかりました。それでは、策定に向けてはまだ紆余曲折があるということですが、本日、会議でご紹介がありましたランドブレインさんは、調査において様々な実績を持たれていると伺っておりますので、こうした市民の参画した取組での成功事例やうまくいってないもの等の情報が多数あると思いますので、そうした事例を収集をし、市民参画がうまくいってる事例が、

四街道市にも当てはまるのかという部分を調査会社との調整しながらご提案をいただければ、より良いものになると思いますので、よろしくお願いします。

【事務局】 もう1つ補足させていただきますと、資料2の6ページ下部分にある「4つの視点」でも示しております通り、共創というところで今後の交通を考えていく上で、やはり様々な関係者と一緒に考えて創意工夫していくことが重要であり、1人1人が主体性を持って取り組んでいくことが、このみんなで創るのにかかってくるのかなと今のところ考えております。

【江守副会長】 これまでの取組についてよく分かったのですが、その後がどうなのかをお聞きしたい。必要性があり、このような実証を実施したのだと思いますが、取組が終わってしまった後、その代替はどうしているのかということが、もしかしたら今後の取組のヒントとなるのではないかと思います。

あともう1つが、こういう取組については認知度が非常に利用に影響するかなと思っていて、取組期間が長いほど、利用しようという雰囲気も広がってくるのではないかなと思います。そういった認知度の差が利用促進に影響してないかどうかというところをお伺いしたいと思います。

あと、もう1点なのですが、今の話では、利用者のニーズは十分に把握できるかもしれませんが、地域としてのポテンシャルがどうかというところは別途調査が必要と思っています。私がよく取り組むのは、バリアフリーの取組なのですが、利用者が多いところに重点的に投資して、それを見本に全域に広げていきたいと思いますというやり方で、地域としてのポテンシャルを高めていこうということを20年前からやっています。もしかしたらですが、公共交通の場合も、必要性が高いところに重点投資して、見本を見て、他の地域に広げていくという方法が適切かなと思っています。そのようなやり方も含めて、どの地域にどういうポテンシャルがあるのかというところは把握した方がいいかなと思います。以上、3点です。

【事務局】 まず1点目の各地域の取組のその後というところですが、新しい取組がまだ見られていない状況でございまして、今お話があったように、そこが今後のヒントになってくるかもしれないと思いますので、アンケート等を整理する中で、考えていけたらと思います。

また、2点目のグリスロの認知度に伴う利用促進というところですが、やはりそれなりの期間をやることによって認知度が高まり、利用が伸びているという実態はあるかだと思います。ですので、何かしら取組をしていく上では、一過性のものではなく、ある程度の持続可能性というのがベースになってくると考えます。

最後、3点目の地域のポテンシャルにつきましては、どこまで対応できるか分かりませんが、可能な範囲で考えていききたいと思います。以上です。

【小早川会長】 時間がない中になりますが、できる範囲で精査していただいて、前向きに検討していただければと思います。

【高橋氏】 今回、国の補助金を活用し、計画を策定されると思いますので、策定に向けて時間的余

裕もって進めていただきたいと思います。補助金の交付手続きには期限があり、そこを過ぎてしまうと、補助金がもらえないこともありますので、ある程度余裕持って策定をしていただければ幸いです。

【事務局】 注意して、進めさせていただきたいと思います。

【小早川会長】 このように取組について資料にまとめていただいたので、様々な意見を出すことができたのかなと思います。この結果、資料 1 のアンケートの方にフィードバックするような意見が出ましたので、そこを反映させていただけると幸いです。よろしく願いいたします。

【小早川会長】 ほかにご質問等なければ、各種実態調査の結果とあわせて、今後の施策検討に向けた情報の整理をお願いし、議題（2）を終了します。

5. その他

【小早川会長】 最後にその他について、事務局又は委員の皆様から何かありますか。

【事務局】 事務局から 3 点、お知らせがあります。

1 点目、アンケート内容についてですが、本日、各種実態調査の実施についてご承認をいただいたところですが、会議後の 1 週間で事務局において各調査票の最終確認を行います。その後、会長と相談させていただきまして、最終的な実施に向かえればと思いますのでよろしくお願いいたします。なお、軽微な修正等であれば対応できる時間がありますので、委員の皆様からもお気づきの点等がございましたら、7 月 5 日（金）正午までに、事務局あて、メール、電話、FAX 等でご連絡いただきますようお願いいたします。

2 点目、前回（第 1 回）会議において、「計画全体の大きな話と個別の話をどのように整理して計画に盛り込んでいくのか事務局で検討して欲しい」とのご意見がありました計画の策定にあたりましては、市全域においてバランスのとれた公共交通の維持・充実を図ることを念頭に検討を進める必要がありますことから、会議では、議題に対して客観的かつ大局的な視点での議論をお願いし、個々具体的な事案やご意見については、随時事務局あてご連絡いただくほか、ご要望に応じて会議とは別にヒアリングの場を設けることで意見の集約を行うことにしたいと考えております。

3 点目、次回（第 3 回）会議の予定についてですが、10 月の中旬から下旬頃に開催を予定しており、具体的な日時・場所につきましては、決定次第お知らせさせていただきます。なお、議題といたしましては、アンケート調査の集計結果及び計画骨子案の 2 点を予定しております。

【小早川会長】 ほかになければ、その他を終了し、進行を事務局へ戻します。

6. 閉会

【事務局】 ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第2回四街道市地域公共交通会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

以上、協議の内容と相違ないことを認め署名する。

議事録署名人 _____ 土門 鈴子 _____

議事録署名人 _____ 伊藤 恭子 _____